

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 予算編成上のいくつかの論点について（60分）</p> <p>今、平成27年度の予算を編成している時期です。編成にあたっては市民の経済状況や働き方、考え方を最も大切にしたい視点が何よりも大切です。その上で市が置かれている状況と今後の予測される変化を加味しなければなりません。決して逆であってはなりません。</p> <p>今年の4月の8%にした消費税増税などによって個人消費は落ち込み、賃金は目減り、住宅投資も大幅に落ち込み、GDPは昨年比1.6%のマイナスです。アベノミクスの完全破たんです。</p> <p>（1）市民税現年課税の調定済額・収入済額を見ると経年的に低下傾向が続いています。（平成25年度の市税概要）生産労働人口のリタイヤ、正規労働者の報酬減、非正規労働者の増などが背景にあると見ますが、市はこれをどう見えていますか 今後の見通しは</p> <p>（2）論点に入る前に平成27年度は、特に、貧困対策にシフトをおこななければなりません。具体的には就学援助など生活保護費の1.5倍を補助基準にすべきですし国保税、介護保険料など市民負担軽減に全力をあげるべきです。また下水道料金などに見られる「受益者負担」などとして負担増を押付けようとしています。止めるべきですがいかがですか</p> <p>（3）生産労働人口のリタイヤ、正規労働者の報酬減、非正規労働者の増などが市民の間で閉塞感が広がっている原因と思われます。ここをどうするかが市の最大の課題です。こうした市の根幹部分の変化がある中でどのような政策選択があると思われますか。平成27年度市予算への反映や今後の政策展開は。</p> <p>（4）最近の市の政策は、こうした市民の閉塞感に拍車をかけるようなことを次々に打ち出しています。</p> <p>ア 公共施設の見直し計画・公民館条例等の廃止計画・公立東部保育所の廃園計画・こども達への過度な競争を強いる動きなどやめるべきです。これらは市民に失望を与え、鶴ヶ島で住み続ける意欲を喪失させかねません。時間をかけ、大々的な市民論議を巻き起こす必要がありますがいかがですか。</p>	<p>市長 教育委員会委員長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>イ 農業大学校周辺へのインフラ整備・オリンピックアクセス道路開発・農業大学校周辺計画・第二期運動公園拡張計画など、どうかと思われる政策も盛り込まれています。見直しをする考えはないか</p> <p>ウ 農業大学校周辺へのインフラ整備・オリンピックアクセス道路開発（圏央鶴ヶ島ICから鶴ヶ島西口）は国、県からの大幅な補助の見通しが無い限り手をつけるべきではないと思われそうですがいかがですか。</p> <p>エ 第二期運動公園拡張計画は平成35年までの現運動公園の返済計画があるなかで財政好転の見極めがつくまで手をつけるべきではありませんがいかがですか、同時に農業大学校跡地内に県の主導と費用によって運動施設の確保に全力をあげるべきですが県との協議及び見通しは。</p> <p>（5）今、市が取るべき政策は、どうしたら生産労働人口を増やすことができるか、そのための政策は、保育に安心できること、給食費の無料化、少人数学級の実現、学校トイレの洋式化の実現など学校整備、公民館を拠点とした文化拠点づくり、「大学」という名の学校が鶴ヶ島市から消えた中で周辺にある大学や学生の活力を生かす政策などを展開し、市内外に希望ある鶴ヶ島市を発信するべきです。これらの展開こそ少子化に有効な手立てにもなります。いかがですか。</p>	